

子ども医療費助成の拡大を

高松 幸雄議員

十分に精査し、早急に実施を検討する
市長



問 現在、本市が実施している子ども医療費の助成制度は、昨年の8月から中学生に対する通院費の助成を開始したところだ。公明党あいさいを含む3党派は、子ども医療費の高校生までの拡充を市長宛てに要望した。

答 助成制度を拡大することは、経済的負担の軽減対策の一つとなると理解している。市として、子育てのしやすいまちづくりのため、いろいろな施策を展開しながら、魅力あるまちづくりを、今後とも進めていきたいと考えている。今回の要望については、十分に精査し、できるものについては、早急に実施する考えで検討していきたい。

通学路の安全確保を急げ

問 北一色町の通学路に、信号の手前で歩道がなく、道も狭いところがある。そこから先にグリーン塗装があるが、信号の手前の横断歩道で切れている。その先も通学路になっているが、全然施工されていない。手前に佐屋小学校と中学校があるので、下校時間が一緒にになると、自転車と歩行者が広がった形になり、車がその後ろについている状況で、非常に危険な箇所だ。解決できない理由は。

答 現況の幅では、グリーンベルトの幅が一部確保できないのが理由で、今後、外側線の引き直しなどを検討し、グリーンベルトを引けるような対応をしていく。

問 危険箇所に対する市長の考えは。

答 通学路の安全確保に努めていかなければならないと考えている。生徒が、交通事故に遭わないように対応をしなければならぬ通学路は変更を含め、できる限り対応していきたい。



▲歩道が突然なくなる危険な通学路(北一色町)